

『視察報告書』

日 時：平成 30 年 7 月 17 日（火）～19 日（水）
場 所：佐賀市（佐賀市下水浄化センター）
長崎市（長崎市役所）
調査議員： 村中克好、田中義一、江村卓三

○（7 月 17 日）佐賀市（佐賀市下水浄化センター）

対応者：議会事務局総務課：野田 浩志
上下水道局下水道施設課：課長 花島 勲

（調査事項）

- 1) 汚泥の堆肥施設について（現場視察）
- 2) 汚泥消化ガス発電について（現場視察）

（報告内容）

1) 汚泥の堆肥施設について

プロジェクターによる汚泥の堆肥化施設の説明を受け、その後、現場視察を行った。

- ・「迷惑施設」から環境共存型「歓迎施設」への取組みを開始。
- ・汚泥処理費用の削減を目的として、堆肥化事業を推進。
- ・DBO方式（公設民営方式）を採用。佐賀市が施設の設計及び建設に必要な資金の調達を行う。
- ・維持管理及び運営期間を、平成 21 年 10 月 1 日より平成 37 年 3 月 31 日とした。（15 年契約）
- ・汚泥の含水率は、消化槽で 90%、汚泥脱水機処理で 82%、汚泥堆肥化で 30~40%。
- ・堆肥取締法に基づく重金属の基準値を満足している。（安全面）

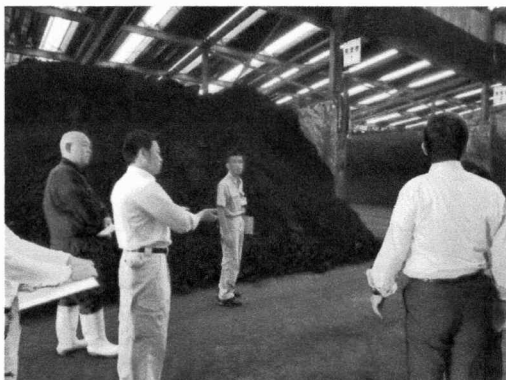
（施設視察）

- ・場内温度は、45 度と高い状況であった。その理由が、汚泥にYM菌を混

合するために、有機物の分解速度が速くなり、100度近い熱が発生することのこと。

これにより、雑菌は死滅。

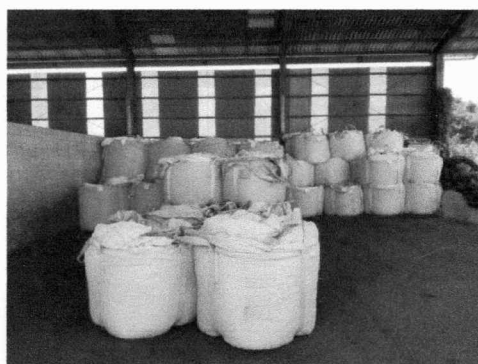
・また、臭気も臭気成分の分解効率が高く、好気性発酵のため、悪臭の発生が低く抑えられるとのこと。



施設内で説明を受ける。



作業状況（重機による混合）



肥料化されたフレコン

（感想）

佐賀市ではこれまで汚泥を焼却されていたが、汚泥処理費用の削減を目的として、堆肥化事業を推進され、約5千万円削減されたようで、本市においても汚泥の有効利用を含み、処分費用の削減に努める時期にきていると感じました。

2) 汚泥消化ガス発電について（現場視察）

主な視察目的として、本市では民設民営で山陰処理場に汚泥消化ガス発電設備が建設中で、31年度より稼働予定となっているため、すでに稼働されている

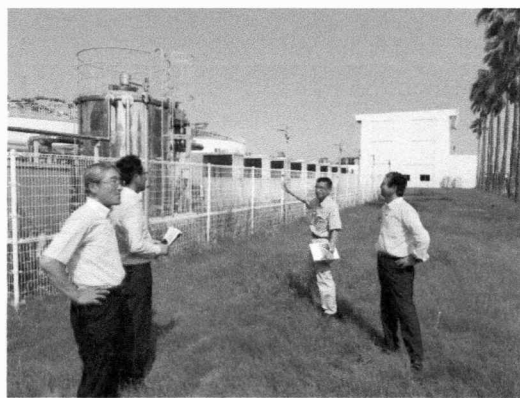
佐賀市へ配置や設備の大きさなどを見学に来た。

本市では、発生したガスはガスタンク貯蔵され、ボイラーの燃料として使われ、消化槽の温度を 38 度に保つことに使われているが、佐賀市では、さらにその消化ガスを利用して発電の燃料としている。

その電力は場内の電力として使われ、場内年間消費電力の約 4 割を賄っていた。



全景（パンフレット）



説明を受ける

（感想）

ボイラーで使用して残った消化ガスを余剰ガスとして焼却せず、発電として利活用することが、これからの時代においては必要だと感じました。

○（7月18日）長崎市（長崎市役所）

対応者：	理財部契約検査課総務課：課長	野崎	清隆
	市民生活部次長兼スポーツ振興課：課長	谷内	正
		振興係長	塩塚 宣博
	教育委員会学校教育課：課長	大塚	潤
		指導係長	山崎 直人
	こども部子育て支援課：課長	井上	琢治
		課長補佐	北嶋 宏子

（調査事項）

- 1) 契約（入札）に関して
- 2) スポーツ推進委員について

- 3) 学力向上の取組み
- 4) いじめ防止

(報告内容)

1) 契約（入札）に関して

○総合評価落札方式について

- ・基本は、一般競争入札である。
- ・総合評価落札方式は、年間2件程度と少ないのが現状。
- ・長崎市は落札の決定においては最低制限価格を適用しているが、国土交通省の通知で、適切なダンピング対策の措置を講じるように要請があったとのこと。そのため、新たな落札者決定基準を検討中。

○一般競争入札について

- ・入札における設計金額基準やランク付けについては、「総合数値」に応じて入札参加できる工事金額帯を設定して発注しており、業者のランク付けはしていないとのこと。
- ・入札条件の考え方については、高度な技術を必要とする工事については、施工実績等を求めているが、資格審査を円滑に行うため、「施工実績の事前確認」と「施工体制実態調査」を実施しているとのこと。
- ・市内業者を優先に考えておられ、9割は市内業者となっていた。

(感想)

総合評価落札方式については、件数も少なく内容としては深く調査をすることができなかったが、一般競争入札などについては、それぞれの課題や対応があり、大いに参考となった。

2) スポーツ推進委員について

- ・選出方法は、中学校区より4~5名の委員を選出とのこと。
117名（男性：82人、女性：35名 平均年齢 59.5歳）
- ・定年制はH19年度より75歳に達したものは新たに委員になれないことを決めておられたが、平成30年度より役職に就くことはできないが、任意で委員になれるようにしたとのこと。

- ・協議会は年2回開催とのこと。但し、必要に応じて役員会は実施されていた。
- ・年会費は、5500円。
- ・研修会（県大会、九州大会、全国大会）の参加経費（交通・宿泊等）については、市で予算化され、参加者が多くてもその予算の範囲で実施。不足分は、自己負担としていた。
- ・スポーツ推進委員の活動状況をお聞きした。

（感想）

本市における課題に対して、いろいろな面で参考となった。

3) 学力向上の取組み

4) いじめ防止

についての報告は、別紙による。

（感想）

市によって、それぞれの課題や対応があり、大いに参考となった。



調査状況

行政視察レポート in 長崎市

平成30年7月18日(水)

出席者 田中、江村、村中

■長崎市 学力向上の取組

あじさいスタンダード 徹底・継続で子どもはのびる

・学力向上の取組

7年間の成績変化が読み取れる

市全ての小3・4年と中学1年生に学力調査を実施
全国(小6・中3)、県(小5・中2)の学力調査と合わせ
小学3年生から中学3年生までの7年間に渡り、児童生徒の学力の細かな把握や経年比較が可能になり、
個々の課題に応じた学習指導に活用している。

・学校サポーター(1日1000円)を活用し、放課後寺子屋を実施。 小学校

・学校図書館司書の活用 43名を配置(原則1人=2校担当)

すべての図書室にクーラーをとりつけ、夏休み中の中学校図書室を学習室として開放して支援している。

・幼保小連携の推進 あいさつ返事元気よく、早寝早起き朝ご飯、履物をそろえる、いい気持ち

・教師の指導力向上の推進および夏季休業中に、講演会・分科会・研修会に取り組んでいる

・子ども達の健康のため、普通教室へのクーラー設置を前向きに検討中

子ども達が勉強しやすいように各中学校図書室すべてにクーラーを設置しているとのこと。又、夏休みには学習室として開放している旨を聞き感動した。

小学校・中学校の図書室は、すべてクーラーつけていとの事で、普通教室にも設置を考えているとの事でした。我が下関市も遅れはせながら各図書室にクーラーをつけ、又、図書館司書を配置してもらいたいものです。

・小中一貫校について

小学校期末テストの設定 中学校に合わせる
中学生による読み聞かせ 小学校へ出張
中学校合唱コンクールへの小学生招待等
乗り入れ授業 小学校←→中学校

調査項目（長崎市）

○契約（入札）に関して

- 1) 総合評価落札方式について
 - ・設計金額基準（特別簡易型、簡易型、標準型）
 - ・評価項目、配点について
 - ・上記の最近の見直しについて
 - ・配置技術者の考え方（兼務など）
- 2) 一般競争入札
 - ・設計金額基準
 - ・ランク付けはあるか。
 - ・入札条件の考え方（実績などの考え方）
- 3) 委託業務入札について
 - ・委託業務の発注担当課は
 - ・委託入札条件の考え方（市内業者優先の考え方）
 - ・JVの考えは。

○スポーツ推進委員について（長崎市）

- 1) スポーツ推進委員
 - ・選出方法
 - ・定年制
 - ・協議会はあるか
 - ・研修会（九州大会、全国大会等）への必要経費の考え方
 - ・報酬の支払い方法
- 2) 市主催スポーツ大会について
 - ・スポーツ推進委員の協力体制について
 - ・地域での活動は。